

# 校内研修計画

甲州市立松里小学校

## 1 学校課題

本校では昨年度までの2年間、青少年赤十字活動研究指定を受け、昨年度は「特別の教科 道徳」に関する研究を行ってきた。道徳科の授業の中で、青少年赤十字活動の態度目標である「気づき 考え 実行する」の理念に基づいた実践をおこない、子どもたちが道徳的価値に**気づき**、自分ならどうすべきかを**考え**、それを**実行しよう**とする意欲を育ててきたことで、一定の成果を上げられたのではないかと考えている。

しかし、1年間の実践で道徳教育の目標となっている「よりよく生きる基盤となる道徳性」はすぐに育まれるものではない。また本校の児童に、研究主題に掲げた「互いに認めあい、助けあい、自ら進んで人とつながる心」をどのくらい育むことができたのかについては、課題も多く見られる。今年度は研究指定も終わったこともあり、昨年度とは違った角度から研究を継続していく必要性を感じている。

そこで、昨年度より設定した「認めあい」「助けあい」「つながり」をキーワードとした重点目標を継続していきたい。学校の教育活動すべてで行われる道徳教育はもとより、その要とされる道徳科について教師が学び、「考え、議論する道徳」を通して子どもたちが互いに話し合い、学び合い、自分の生き方を見つめ直せるような実践を行う中で、本校が目指す児童を育成していきたいと考えている。

## 2. 研究主題

互いに認めあい、助けあい、自ら進んで人とつながる心を育むための道徳授業のあり方

～ 「考え、議論する道徳」の授業実践を通して ～

## 3 主題設定の理由

平成29年3月31日告示の新学習指導要領に基づき、昨年度より「特別の教科道徳」が完全実施となった。論点整理では教科化の大きな目的を『読み物道徳』から脱却し、問題解決型の学習や体験的な学習などを通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結びつけ、さらに習慣化していく指導へと転換すること」としている。「自分ならどのように行動・実践するか」を仲間とともに「考え」「議論する」道徳の学習へと変えていかなければならないということではないだろうか。与えられた教材を読み、登場人物の心情を理解するだけでなく、「何が問題なのか」を子どもたちが主体的に考え、「登場人物はどうすべきだったのか」「自分ならどのように行動するのか」を議論し、心情理解に留まらず、実践につながる方法についても踏み込んで考えさせる必要がある。このような学習の積み重ねや、日常生活の中で行われる道徳教育が、子どもたちの道徳性を高めていくものとする。

道徳科においても資質・能力の三つの柱とされる力を養うため、主体的に「考え」、友達と「議論」する中で道徳性を高めていく必要がある。本校の児童が目指すべき目標を設定し、そこにたどり着くための手立てについて明らかにしていきたい。

そこで、本校では昨年度より道徳教育全体の目標を図1のように捉えた上で、道徳の重点目標を「互いに認めあい、助けあい、自ら進んで人とつながる心を育む」と設定した。本年度も、子どもたちが「よりよく生きる」ために必要な、人間関係の一番土台となる部分を育むため、道徳授業の在り方について知見を深めていきたい。昨年度学んだ授業に対する考え方や役割演技の生かし方等を取り入れながら、さらに授業のスキルを高めていきたい。

また子どもたちが、自分の生き方について考え、様々な考えに気づき、さらにそれを自分の生き方に生かし深めていけるようなフィードバックを教師が行えるよう、その手立てや考え方についても学んでいきたい。道徳科を含めた道徳教育全体が子どもたちの道徳性を養えるものにするためには、その変化や成長の様子を的確に伝えることがとても重要だと考える。子どもたちが何をどのように学べばよいのかの指針となるような評価の在り方を探っていきたいと考える。

## 4 松里小学校の道徳教育の重点目標

『互いに認めあい、助けあい、自ら進んで人とつながる心を育む』

## 5 松里小学校の重点内容項目

### 『B 主として人との関わりに関すること』

- ・親切、思いやり
- ・相互理解・寛容

### 『C 主として集団や社会との関わりに関すること』

- ・勤労、公共の精神
- ・よりよい学校生活、集団生活の充実

## 6 研究内容と方法

(1) 具体的な研究内容

#### 道徳に関わって

○道徳科の授業実践と授業研究

- ・「考え、議論する道徳」を生かした授業の工夫
- ・子どもの変化を見とる評価の工夫

#### 確かな学力育成プロジェクトに関わって

○確かな学力を育成するための取り組みの継続

- ・Q-U 検査と K-13 法の実施
- ・家庭学習への取り組み
- ・あいさつ、学習規律に関する取り組み
- ・授業の構造化と授業改善（ティーチャーズノートの活用）
- （・アウトメディアに関わる取り組み）

(2) 研究の方法

○児童が主体的に学び合う授業の工夫・道徳の評価についての研修

・指導主事を招いての理論研修

○授業研究

○一人一実践

## 7 研修計画

| 月 日   | 内 容  | 担当者          | 学年 | 授業の時期 | T・C |
|-------|--|--------------|----|-------|-----|
| 4/10  | ① 研究主題・重点目標・内容と方法・研究計画                     | 研究主任         |    |       |     |
| 4/17  | ② 研究主題・重点目標・内容と方法・研究計画の提案・決定<br>確かな学力部 P 会 | 研究主任<br>P 部会 |    |       |     |
| 4/25  | ③ 確かな学力 P への取り組みについて                       | 学力 P 部会      |    |       |     |
| 5/15  | ④ 学力 P 部会の研究内容・道徳部会の研究計画                   | 全体・部会        |    |       |     |
| 5/31  | ⑤ Q-U の分析                                  | 低・高          |    |       |     |
| 6/19  | 学力 P 講演会（斎藤先生）                             |              |    |       |     |
| 7/ 3  | ⑥ 道徳に関する学習集会（師範授業参観）                       | 全体           |    |       | ○   |
| 7/ 5  | 学力 P 講演会（玉井先生）                             |              |    |       |     |
| 7/10  | ⑦ 授業づくりと評価に関する研究                           | 部会           |    |       |     |
| 8/21  | ⑧ 授業づくりと評価に関する研究                           | 部会           |    |       |     |
| 9/ 4  | ⑨ 道徳に関する学習集会（評価）                           | 研究主任         |    |       | ○   |
| 10/ 2 | ⑩ 指導案検討・部                                  | 部会           |    |       |     |
| 10/11 | 学力 P 講演会（盛山先生）                             |              |    |       |     |
| 10/16 | ⑩ 指導案検討・部                                  | 研究主任         |    |       |     |
| 10/23 | ⑫ 研究授業①                                    | 研究主任         |    |       | ○   |
| 10/30 | ⑬ Q-U 分析                                   | 低・高          |    |       |     |
| 11/13 | ⑭ 指導案検討・部と授業の反省                            | 研究主任         |    |       |     |
| 12/ 4 | ⑮ 研究授業②                                    | 研究主任         |    |       | ○   |
| 12/ 6 | 学力 P 講演会（河村先生）                             |              |    |       |     |
| 12/11 | ⑯ 確かな学力 P の取り組みの反省                         | 研究主任         |    |       |     |
| 1/22  | 学力 P（竹下先生）                                 |              |    |       |     |
| 1/29  | ⑰ 今年度の総括・研究紀要について                          | 研究主任         |    |       |     |
| 2/26  | ⑱ 研究紀要の作成                                  | 研究主任         |    |       |     |
| 3/ 4  | ⑲ 本年度のまとめ・成果と課題                            | 研究主任         |    |       |     |

